

平成 21 年 5 月 28 日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）  
 研究期間：2007～2008  
 課題番号：19890093  
 研究課題名（和文） 在宅療養における高齢者身体拘束の実態と対策—家族介護者と在宅サービス提供者の認識  
 研究課題名（英文） Perceptions of physical restraint by family caregivers and home-care providers of home-dwelling elders  
 研究代表者  
 倉田 貞美（KURATA SADAMI）  
 浜松医科大学・医学部・講師  
 研究者番号：20436976

## 研究成果の概要：

家族介護者、ならびに、在宅介護を支えるサービス提供者の多くが、身体拘束についての知識を新聞・テレビから得たと答え、講習会等研修を受ける機会が全くないと答えた割合が、非常に高かった。サービス提供者の約4割が身体拘束を高齢者の家庭で見ているが、職種によって認識に差があり、多くが身体拘束に関して家族介護者の理解を促し支援するのに十分な認識・知識を持っていないことが判明した。今後、身体的虐待につながる家庭内身体拘束を効果的に防止するためには、家族介護者を混乱させず同一の見解で家族介護者を支えるために、在宅サービス提供者全体への統一的な研修体系構築が必要かつ不可欠であることが確認された。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	360,000	0	360,000
2008年度	770,000	231,000	1,001,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,130,000	231,000	1,361,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：在宅療養 在宅サービス提供者 家族介護者 身体拘束 高齢者  
 主治医

## 1. 研究開始当初の背景

超高齢社会への移行、入院日数の短縮化、在宅療養重視の施策により、医療管理が必要で、かつ重度の介護を要する高齢者の在宅療養が増加している。家族の小規模化や介護者の高齢化等による介護力の著しい低下、鬱症状を抱える介護

者の増加等深刻な問題を抱え、在宅介護は非常に厳しい状況で行われている。その結果、心身ともに限界に追い込まれ、虐待行為でもある身体拘束が実施される危険性は高まっている。しかし在宅療養における身体拘束については、その実態さえ把握されていない。

## 2. 研究の目的

在宅における不必要な身体拘束を防止するためには、家族介護者と在宅サービス提供者；居宅介護支援専門員・訪問看護師・訪問介護員・主治医が正しい認識を持って家族を支えることが重要である。そこで家族介護者・居宅介護支援専門員・訪問看護師・訪問介護職員・主治医の身体拘束に関する認識の実態を明らかにし、施設とは異なる在宅の特性に合った対策構築に貢献できる基礎データを得ることを目的とした。

## 3. 研究の方法

所属の倫理審査委員会の承認を受け、研究の趣旨を説明し同意を得た後、自記式の質問紙による調査を行った。調査対象者は調査時点で在宅介護を継続している家族介護者、在宅においてサービスを提供している居宅介護支援専門員・訪問看護師・訪問介護職員・在宅療養者の主治医師とした。主な調査内容は身体拘束の具体的禁止項目の認知度、弊害に関する認識、必要度、知識を得る機会や場所、及び、拘束に関する相談先、人口統計学的項目とした。統計手法を用いて家族介護者と職種間の特徴、傾向、関連性や影響要因について分析を行った。

## 4. 研究成果

サービス提供者の約4割が身体拘束を高齢者の家庭で見たと回答し、在宅における身体拘束が決して少なくないことが明らかになった。身体拘束の情報源は、家族介護者、サービス提供者ともに、新聞・テレビが最多で、講習会等研修を受ける機会が全くない割合は家族介護者が最も高く、次に主治医であった。介護支援専門員は複数回の研修に参加した割合が最も高かった。身体拘束に関する認識が、家族介護者と主治医で共通する傾向が示され、主治医と居宅介護支援専門員の間で大きく異なっていた。その背景の一因として身体拘束に関する研修参加の有無が影響している可能性が示唆された。

また在宅療養を支える4職種間で認識に差があり、多くが身体拘束に関して家族介護者の理解を促し支援するのに十分な認識・知識を持っていないことが判明した。今後、家庭内身体拘束防止を効果的に推進するために、家族介護者を混乱させず同一の見解をもって連携して家族介護者を支えられるよう、在宅サービス提供者全体への統一的な研修体系を構築し、認識の差を是正することが重要な課題である。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 0件)

[学会発表] (計 2件)

①倉田貞美、在宅療養における高齢者身体拘束の実態と対策—家族介護者の家庭内身体拘束に関する認識調査—、日本老年看護学会第13回学術集会、2008.11.8、石川県立音楽堂

②Kurata Sadami: Perceptions of physical restraint by family caregivers of home-dwelling elders, 19<sup>th</sup> International Association of Gerontology and Geriatrics World Congress, 5-9 July 2009, Paris

[図書] (計 0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0件)

○取得状況 (計 0件)

[その他]

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

倉田 貞美 (KURATA SADAMI)  
浜松医科大学・医学部・講師  
研究者番号：20436976

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者